



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.80
Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2021.春

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

第64回企画展

鳥がトリであるために

2021年7月17日(土)
～12月5日(日)



イベント情報

企画展オープニングワークショップ「クレヨンで鳥トリすけっち」

講師：加藤 休三 (クレヨン画家/絵本作家)
日程：7月17日(土) 午前：10:00～11:30、午後：13:00～14:30
定員：各回10名
対象：小学生以上、小学生は保護者と一緒に参加してね (こどものイベント)
参加費：保険料50円、観覧券が必要
場所：当館企画展示室内
※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては実験室等で開催

ワークショップ「鳥トリキューブをつくってみよう！」

講師：高橋 綾 (群馬県立女子大学教授)
日程：9月11日(土) 10:00～11:30
定員：15名 (12組まで)
対象：4歳以上 (4歳～小学校3年生までは、保護者と一緒に参加してね)
参加費：保険料50円、観覧券が必要
場所：当館実験室、作品完成後、企画展示室に設置します

観覧会「群馬サファリパークで鳥トリ観覧会」

講師：中川真梨子、澤田 寛、新井 優希 (群馬サファリパーク)
日程：10月10日(日) 10:00～14:00
定員：20名の特別企画
対象：どなたでも、車で群馬サファリパークにご来園が可能な方
参加費：大人2500円、小人1500円 (3歳～中学生)+50円 (保険料)
※駐車料金 (施設利用料) 500円、ガイドラジオ代500円は別途清算
受付：第1駐車場に車を止め、売店マルシェ前の受付にお越しください。
場所：群馬サファリパーク
午前：獣医師の先生による鳥トリレクチャー、フライングショー
午後：フラミンゴ観察と特別解説、ダチョウもぐもぐ観察

まるっと
サファリを楽しもう
(草食・肉食動物の
エサ代込み)

講演会「鳥類学者の食卓～キッチンから覗く鳥類進化～」

講師：川上 和人 (森林総合研究所・主任研究員)
日程：10月17日(日) 13:30～15:30
対象：小学生以上、小学生は保護者と一緒に参加してね
定員：50名 参加費：無料、観覧券が必要
場所：当館学習室

講演会「鳥と古代人のトリドリばなし

～ニワトリ・「鶉」と弥生人、地上絵の鳥とナスカ人～

講師：江田 真毅 (北海道大学総合博物館准教授)
日程：11月7日(日) 13:30～15:30
対象：小学生以上、小学生は保護者と一緒に参加してね
定員：50名 参加費：無料、観覧券が必要 場所：当館学習室

ワークショップ「ニワトリの骨格標本をつくってみよう」

まるまるのニワトリを解剖して、トリの骨格標本をつくるよ！

講師：中川真梨子、澤田 寛、新井 優希 (群馬サファリパーク)
日程：11月28日(日) 10:00～15:00
定員：15名 (12組まで) 対象：小学校5年生以上
場所：当館実験室 参加費：保険料50円、観覧券が必要

屋内鳥トリ観覧会

案内人：清水 伸彦 (群馬県立自然史博物館・特別研究員)
～夏鳥を探せ～
7月29日(木) 定員：各回10名 時間：10:30～10:45 13:45～14:00
8月19日(木) 定員：各回10名 時間：10:30～10:45 13:45～14:00
～冬鳥を探せ～
11月20日(土) 定員：10名 時間：10:30～10:45
参加費：無料、観覧券が必要
対象：小学生以上、小学生は保護者と一緒に参加してね
場所：当館企画展示室

サイエンス・サタデー「ばたばた鳥のモビールをつくってみよう」

日程：8月 毎週土曜日 12:40～14:05～
定員：各回15名 (12組まで) 参加費：無料、観覧券が必要
場所：当館実験室 受付：当館エントランス前 (当日受付)
※受付時間はホームページをご覧ください。

※ イベントは、内容が変更あるいは中止になる場合があります。
最新の情報は博物館ホームページをご覧ください。
● イベント予約 博物館HPよりお願いいたします。
(サイエンス・サタデーは除く)

企画展案内

第64回企画展示 『鳥がトリであるために』

知ってる？ 鳥がトリである理由

「鳥がトリであるために」必要なものはなんでしょう？

やはり、「羽」を持っている、ということではないでしょうか。



もちろん、羽だけでは空を飛ぶことも、水中を飛ぶように泳ぐこともできません。

「飛ぶ」ためには、軽くて丈夫な骨、スリムでマッチョな筋肉、

エネルギー効率と新陳代謝の良い体が必要です。

体の大きなハシビロコウから小さなハチドリまで、形さまざま、

色とりどり、多様な環境に適応した鳥たちの世界を探検しませんか？

みなさまを「鳥トリ大行進」がお待ちしております。

自然のコラム やぶ 藪と調査のお話

道があってもなくても、地表に顔を出している地層や岩石を求めて縦横無尽に調べてまわるのが地質調査です。ただしそこに濃い藪さえなければ……。

藪とは、低い木々や笹などが密に集まり、生い茂っている場所のことです。藪をかき分けて進むことを「藪を漕ぐ」と言います。本当に濃い藪は、がんばって漕いでも1時間に100mも進めないことがあります。

手つかずの大自然に入ると、濃い藪を進まないと調査ができないことがあります。例えば尾瀬の山々の調査では、許可を得て大自然の中を調査するのですが、そこに広がる藪の中に人の道は一切ありません。藪が薄いとシカ道ができていたこともありますが、本当に濃い藪ではシカの道すらないのです。



尾瀬の笹藪の風景

そんな藪でも、研究を進めるためにどうしても確かめたいことがあったので、背より高い笹の藪を漕いだことがあります。1時間も経たないうちに、幅1m程度の道と、笹の上に

寝転がった跡を見つけました。濃い笹の藪がトンネルのようになっていて、つらい藪漕ぎが嘘のように快適な山歩きに変わりました。皆さんもなんとなくお気づきかと思いますが、よく地面を観察すると、ところどころにクマの足あとが残っています。そうです、この道はツキノワグマたちの専用道路だったのです。この時は幸い向こうの方で丸くなって寝ているクマをこちらから見つけたので、こっそり引き返して来ることができました。

たくさん雪が降る地方では、藪の上に残雪が乗っている季節に調査をするという裏技があります。雪山装備は必要ですが、夏・秋に濃い藪を何時間も漕いでよ



残雪の大白沢山

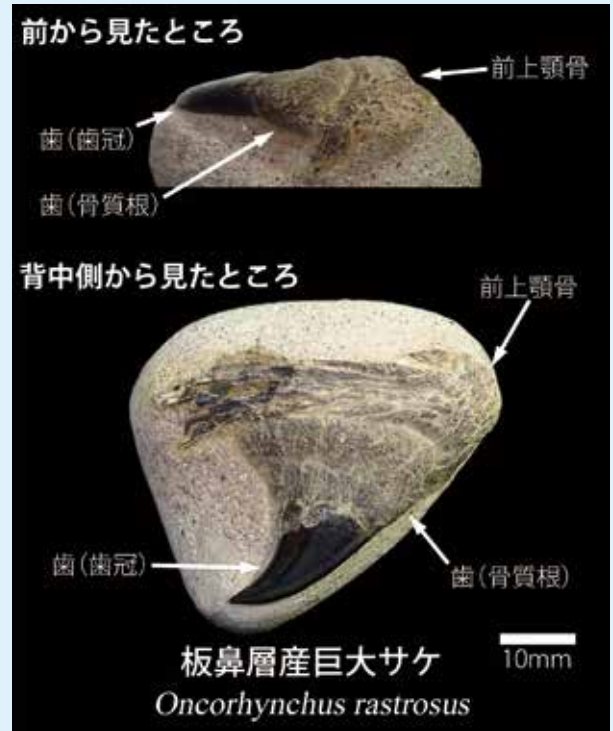
うやくたどり着ける場所に短時間でたどり着けるというのが利点です。今年ももうすぐ残雪シーズンが終わり、藪シーズンが始まります。クマとの思いがけない遭遇やマダニには十分気を付けて今年も調査したいと思っています。(地学研究係 菅原 久誠)

自然史博物館では毎年3月に研究報告を出しています。研究報告の中身は博物館職員による研究をはじめ、自然史博物館の所蔵標本や群馬県の自然に関する研究などをまとめた学術論文で、発行されることで世の中に公表されることになります。今回は、そんな研究報告の最新25号で私が報告した太古の群馬に存在した巨大なサケを紹介します。

今回報告したサケの化石は、これまでも重要な化石をたくさん見つけている中島一さんが板鼻層(約1000万年前に堆積した地層)から採取し、当館に寄贈してくださった標本の一つです。標本は、大きな三角形の歯(前上顎骨歯)と顎を構成する骨の一つである前上顎骨が直接関節し、尖った歯の先端部には黒い光沢があります。この化石の特徴、特に歯の形・構造・大きさ、前上顎骨との関節様式を国内外の文献などで調べました。

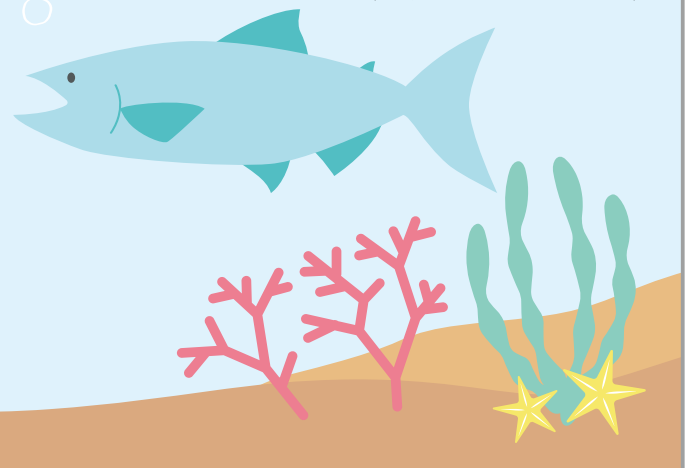
その結果、板鼻層の化石は1973年に北米西岸の化石標本を元に新種として記載されたサケ属の絶滅種 *Oncorhynchus rastrosus* に同定されました。北米産標本の研究によれば、このサケは約1200万年前(中期中新世)から約500万年前(前期鮮新世)に存在した種で、その最大体長は2.3メートルという巨大なサケでした。骨格の特徴から現生サケ属の中ではベニザケ *O. nerka* に近く、現在の多くのサケ類と同様に繁殖期には川を遡上したと考えられます。

この種の特徴である巨大な前上顎骨歯は、繁殖期のオス同士の争いや川底にメスが卵を産む場所を掘る時に使ったと推定されています。これまで、この歯は下向きに伸びていたと考えられていたのですが、最近の研究で横向きに伸びていたことがわかりました。また、板鼻層の化石は、歯の先端があまり削れておらず、歯の根元の部分(骨質根)が肥大化していないことから、川を遡上する前に息絶え、そして砂に埋もれて化石になったものだと考えられます。



今回、この巨大サケが板鼻層から確認されたことで、約1000万年前の北太平洋では東岸(北米西岸)だけでなく、西岸(日本)にも巨大サケがいたことが確実に became. また、板鼻層の標本は、日本列島のサケ属化石としては今のところ最古となるため、少なくとも約1000万年前の日本にすでにサケ属がいたこともわかりました。今回の板鼻層の巨大サケは部分的な標本ですが、こうした化石でも同定結果を積み上げていくことで、群馬や日本の太古の世界にどんな動物がいたかを調べる重要な記録になるのです。

(地学研究係 高桑 祐司)



公民館と連携した事業

「博物館は展示をたくさんしているところ！」という印象をもっている皆さんが多いと思います。「富岡の恐竜博物館ですか？」と電話のお問い合わせもあります。自然史博物館では、恐竜の展示はもちろんのこと、地球の誕生から生命の進化の歴史、群馬県の豊かな自然を様々な展示を通して紹介しています。多くの皆様にご来館いただき、展示を楽しんでいただいております。時折、お客様から「行きたいけどなかなか行けなかった」、「遠くて」と聞くこともあります。

そこで、自然史博物館では遠くて来館できない方や自然史博物館をご存じない方に知っていただけるように、県内各地で移動博物館や出前講座を行い、ミニ展示やイベントを実施しています。



展示の解説



和室での展示

令和2年度は沼田市利南公民館で移動博物館を開催しました。コロナ禍での開催ということもあり、展示内容や方法を公民館の方と一緒に検討し、感染対策を十分に配慮した展示や体験活動ができました。密をさけるために大きな恐竜の化石等は、和室に展示しました。普段は見ることない和室と化石のギャップが功を奏し、たくさんの方から好評価をいただき、楽しんでいただきました。

また、令和2年度は富岡市吉田公民館において出前講座を実施しました。「化石ミニ発掘体験」と「海のハーバリウムづくり」の2本立てで、90分間で行いました。博物館での講座は、体験に関わる学びが含まれており、楽しいだけではありません。「ふ〜ん」「そうなんだ」

等の感覚を味わった後に楽しい体験活動を行っています。例えば、本物の化石を発掘する体験は、なかなか化石を取り出せないのが苦労を伴います。ですので、獲得した化石は、持ち帰ることができるのですが、本当に大事になっているようです。また、ハーバリウムづくりでは、本物の海藻を凍結乾燥させた標本を使って作製します。ハーバリウムオイルを入れた瞬間に光を当てると、海藻標本の色がより輝いて見えます。

この様に自然史博物館は、公民館等と連携して、様々な事業を行っています。それぞれの公民館やその地域の特徴にあった開催方法や内容を公民館の方と一緒に企画・開催しています。みなさまのお住まいの近くにある公民館などで、博物館と連携した事業が開催されている場合は、ぜひご参加いただけたらと思います。

(教育普及係 石川 直紀)



海のハーバリウムづくり



海藻のしおり



感染症対策

利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00 (入館は午後4:30まで)
事前予約制 詳細は、ホームページをご確認ください。

■休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料

	一般	高校・大学生
第64回企画展開催時 (R3.7.17～12.5)	800円 (640円)	450円 (360円)
常設展のみ開催時	510円 (410円)	300円 (240円)

*博物館は
事前予約制*



*中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。
*()内は、有料者20名以上の団体料金となります。

群馬県立自然史博物館だより
Demeter No.80

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため
植物油インクを使用しています。